

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3092100043		
法人名	株式会社さくらメディカル		
事業所名(ユニット名)	グループホーム潮風ひだか 【ユニット名:しらなみ】		
所在地	和歌山県日高郡日高町小池23		
自己評価作成日	令和3年1月26日	評価結果市町村受理日	令和3年4月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action=kouhou_detail_022_kani=true&JizyosyoCd=3092100043-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	令和3年3月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田園地帯の中で四季折々の風景を味わえる環境の中で、入居者が日々の生活の中で、役割や趣味の活動が多く取り入れられ、個々に応じた生活が送れるよう日々努めています。コロナ時期で外部との交流が厳しい状況ですが、家族様と入居者様の絆は変わらぬ繋がりを持てる様に努めています。会社の意向もあり看護職員を兼務で3名配置し、入居者の健康管理、介護職員、看護職員との連携による異常の早期発見や医療機関との連携、看取り介護の実施等に力を入れています。近年は家族様が自然な形で看取りを希望されることが多く、介護と看護が協働し柔軟に対応できるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年度は、新型コロナウイルスの影響に伴う制限の中で、事業所の理念である入居者に笑顔になってもらうため、家族限定ではあるが、感染対策を講じて玄関にて面会できるよう工夫し、多くの家族が面会に訪れている。また、入居者の笑顔を少しでも引き出せるよう、全員で行っていたレクリエーションから個別のレクリエーションに変えたり、地域の話題について会話を盛り上げる等種々の対応を実施している。看護職員が日中に2人配置されており、入居者の健康面や通院等に柔軟な対応がなされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を基に「今日も明日も笑い合おう。なじみの暮らしをいつまでも」というユニット理念を掲げています。職員が共通の意識でより良いケアに取り組めるよう、理念をユニット内に掲示しています。	コロナ禍に伴い、外出が少ない中で、笑顔を基本にした理念が実践出来る様、入居者に張り合い保たれるようレクリエーションを行ったり、会話を重視しながら個々の思いを聞き、常に笑顔で過ごせるような取組がなされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近隣の保育園と年に2回交流や地域サークルの方や家族様の所属するサークルの方々に訪問して頂く機会を持っていましたが、本年度はコロナ時期の為、自粛しています。	コロナ禍以前は地域交流が図られていたが、今年度は自粛の制限のある中で、職員が町主催の介護家族交流会に参加し、家族の相談にのったり、地域の人に家庭菜園用のイチゴの苗等を分けてもらったりと限られてはいるが交流を図った。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症リポーター養成講座を職員が受講予定でしたが、コロナの影響で中断しています。時期を見て再開したいと考えてます。月1回、町主催の家族介護者の交流会に参加し地域の人々と交流させて頂いております		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年度はコロナの影響で実施できていませんが、ホームの状況を資料にし、指定の町村との報告や情報交換をしています。	コロナ禍の影響に伴い、運営推進会議は実施できていない。代わりに、ホームの状況を資料にし会議のメンバーに配布したり、報告や情報交換等も電話にて行っている。今後は、少人数での開催も検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃より不明な点等を市町村担当者に相談しています。また、市町村からの要望や相談にも応じ、協力関係を築いています。緊急を要する際には協力依頼出来る様、家族様も交えカンファレンスを実施しています。	市町村の担当者とは常に連絡を取り合い、協力関係を築くとともに、町主催のケアマネ会議に参加して情報を得ている。また、困難事例が有る場合には、協力を依頼し家族・町村担当者を交えてのカンファレンスを実施している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修計画に組み込み、年2回身体拘束廃止に向けた研修を行い理解を深めています。日頃のケアの中で行動を抑制するような声掛けがないかなどを職員間で話し合い意識を高めています。	年2回身体的拘束廃止に向けた内部研修を行い、日頃のケアにおいて、行動制限するような声掛けが無い職員間で話し合っている。虐待防止研修において、入居者の心理について話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても年に2回研修を行い、虐待に近い行為がないか、また見過ごすことのないように日頃のケアの中で状態観察をし、職員間でも注意し合えるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症の方の権利擁護、成年後見制度等に関して、研修計画を立てていますが、実施できていません。成年後見制度の必要性が出てきた場合、市町村担当者と協力し支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、一連の必要書類を説明していく中で随時不明な点がないか確認し、ご本人、家族様の理解、納得できるよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時や電話連絡以外でEメールで連絡を取り、毎月入居者様の状態報告書作成し家族様に郵送する事で家族様と信頼関係を築ける様努め、頂いた意見や要望は共有、検討しサービスや運営に反映しています。	家族とはコロナ禍で面会自粛の中、電話やEメールで連絡をとり、毎月の入居者の状態報告書を郵送して信頼関係を築いている。家族の要望で入居者の喜ぶ物を買って欲しいというリクエストにも対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務や運営に関する提案書を活用したり、毎月行っているユニット会議にて意見、提案を聞き、必要に応じて検討会を開き、運営に反映できるよう努めています。	毎月実施しているユニット会議にて、無記名の提案書に要望を出してもらうなど、職員の意見を幅広く汲み取る取組みがなされている。また、出された意見については、必要に応じて検討会を開き運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	能力に応じ各職員に役割分担し、日常業務以外にも向上心を持てる様環境を作り、シフト調整をし働きやすい環境作りに努めています。又必要に応じ面談等し職員の相談を受けたり、個々の状況把握に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得支援の一環で研修費用を負担したり、回覧している社外研修を希望する場合は勤務調整をしたりし知識、技術の向上に取り組んでいます。又毎月のユニット会議後に勉強会を実施し知識を高めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームや居宅介護支援事業所等の関係者と相談しているが、互いに行き来する機会は減っている。市町村が開催しているケア会議に出席できる時は出席している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談し本人様の現状把握し、本人様や家族様の悩みや求めている事を見出しサービスに組み込む事で不安を最小限にできる様努め、入居後はD-4シートを用い本人様の言葉を記録し思い傾聴に努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談から入居に至るまでに不安なことや不明な点、要望などを聞き、関係を築いていけるよう努めています。必要に応じてこまめな電話連絡にて本人様の状態の情報共有もしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居に際しアセスメントを十分に行い、ご本人や家族様が今何を必要としているかを見極め、他サービスの必要性、要望があれば情報提示も含め対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の気持ちや希望を大切にし、日々のケアを通じて多くのことを学ばせて頂き、尊敬尊重の念持って関わり、掃除等の簡単な家事は一緒にして頂く事で、互いに支えあう気持ちで接するよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生会や敬老会に家族様を招き共にお祝いしたり面会や家族様との外出機会を持っていたがコロナの影響で実施できず。現在は感染予防対策し玄関先の面会や電話で家族様と入居者様の関わり支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染み深かった場所や思い出の場所に出かける等がコロナ影響で実施できず。室内で思い出話に花咲かたり、職員手作り地域ゲームで懐かしの場所を思い出して頂いたり、家族様と文通出来る環境を作っています	コロナ禍による制限の有る中で、感染予防対策を講じたうえで、玄関先において、家族との面会を実施し、多くの家族が面会に訪れた。また、地方新聞の内容を伝えたり、地域カルタや手作りゲームを用いて本人にとって馴染みのある場所等を思い出してもらうなどの配慮をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	大居者様同士の関係を観察し、必要時に職員がさりげなく橋渡し役になれる様努めています。また、洗濯たたみ等を一緒にして頂く等、入居者様同士が関わりを持てる機会を作り共同生活が送れる様努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人様のホームでの様子を撮影した写真でアルバムを作り退居時にお渡ししています。退居後もご本人や家族様の近況を訪ねたり、必要に応じて相談等も受けています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアの中で入居者様の希望や要望をくみ取れるよう、入居者様の言葉を記録し、また自己表現が困難な方の心情に添える様にも努め職員間で共有し意向に沿えるよう努めています。	生活歴を家族に聞き、入居者の希望や要望を汲み取れるよう記録を行っている。また、カンファレンスには、入居者に入ってもらい本人の希望や意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の生活歴や慣れ親しんだ環境等をご本人や家族様から聞き、モニタリングし、職員間で情報共有していき、サービスに反映できるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の様子を観察し、必要時はカンファレンスで話し合い、一人ひとりの趣味や嗜好を取り入れ、有する能力を継続できるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族様の意向や意見を反映した介護計画作成に努めています。3か月に1度または必要に応じカンファレンスを行い現状の課題や問題について検討しています。カンファレンスは本人様にも参加して頂く事もあります。	3ヶ月に1度、又は必要に応じてカンファレンスを行い、本人・家族の意向を聞き、現状の課題を検討している。寝たきりにならないよう、またコロナ禍で出来ないことも、工夫してできるよう計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	セフター方式の生活リズムデータベース活用し日々の活動や気づき、異変等記入しています。C-1-2シートも導入し多数職員の目線で本人様を偏りなく観察できる様にし情報共有し介護計画を見直しケアに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や家族様の状況の変化により新たな課題が出てきた際、必要に応じてサービスや支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のサークルの方々にボランティアにお越しいただき、楽しみを持ちながらご本人の持っている力が活用できるよう支援していたが、コロナの影響で実施できていません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様や家族様の希望を伺い適切な医療が受けられる様支援、医師による定期的な訪問診療や必要に応じ受診介助も実施。又主治医への状態報告や指示受けを確実に近い医療機関との関係作りに努めています。	担当医の定期的な訪問診療が行われている。また、遠くの病院への診察は家族が同行するが、近くの専門医の診察は、看護師が受診介助や状況報告などを行うとともに、本人や家族の希望に沿った適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員と看護職員が日々の情報交換を密に行い、主治医や医療関係機関と連携し、健康管理、緊急時の対応に努めています。夜間は看護師がオンコールにて緊急時対応と相談、助言をおこなっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナの影響で、入院中の面会はできませんが、洗濯物を取りに行く際、病院関係者と情報交換を行い連携を図っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期対応の方針やできる事等説明、重度化や見取り介護について家族様の意向を書面で確認しています。又必要に応じてカンファレンス実施、その都度ご家族の意向を確認し、必要時には主治医と家族様、ホームの三者カンファレンス実施しています。	入居時に、終末期対応について説明しているが、長期の入居に伴い看取り介護を希望する家族が多くなっている状況のため、必要に応じて主治医・家族・職員の三者でカンファレンスを行い、希望に添えるよう検討している。また、看取り時に職員が不安にならないよう連絡体制も整備されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時のマニュアルを作成し全職員が閲覧できるようにしています。また、研修の機会も設けたりフローチャートも作成しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災を想定した避難訓練を年2回実施しています。近隣の方にも協力を仰いでいますが共同した訓練は実施できていません。	各ユニットで災害を想定した自主避難訓練は、入居者も交えて年2回実施している。備蓄もローリングストックを行っている。災害時のマニュアルも設定されているが、コロナ禍のため、地域との訓練は出来ていない。	実際に1施設で災害があった場合、関連施設間の協力が必要と考えられる。今後は、関連施設間の訓練なども期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会で接遇の学びを共有し日々のコミュニケーションや対応の中で個々を尊重した声掛けや対応を行い、良い関係が築ける様努めています。又、家族様の了解の下、親しみを込め呼びなれた名で呼ばせて頂く事もあります。	声かけは耳元で行い、入居者一人に対して一人の職員が対応し、ゆとりを持って接している。接遇の勉強会を行い、良い関係が築けるよう研鑽に努めるとともに、必要に応じて、家族の了解のもと呼び慣れた名を呼ぶこともある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で家事や休憩などご本人のしたい事ができる時間を多く取り入れています。一方的な押し付けにならない様、希望を聞き、入居者様によっては選択しやすい様に2択にして自己決定ができる様支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを心がけ、体調や気分を伺いながらご本人の趣味や嗜好を継続できるよう支援しています。入浴は曜日指定することなく、本人様の意向に沿って対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性の方はお化粧品や毛染め、男性は髭の手入れ等ご本人の望む格好やお洒落ができる様支援しています。各月で訪問美容師に来て頂き、皆様に住み慣れた空間で落ち着いて整容して頂ける様環境作りしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常会話の中で入居者様の嗜好を把握し献立に取り入れ、状態に応じ形態や食材を変更しています。盛り付けや後片づけ等を手伝って頂いています。茶粥、米飯、パン食等希望に添える様努めています。	行事食や手作りおやつに季節感を取り入れるよう努めている。誕生日には、外注食も取り入れて皆で楽しんでいる。時にはカフェ気分を味わって貰うなど工夫を凝らしている。入居者には、盛り付けや後片付け等も手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスよい食材や旬の食材を使用し献立を作成、栄養バランスが偏らない様努め水分や食事量を把握する様毎回記録してます。嚥下状態不良の方はトロミ加工、糖尿病の方は過度な摂取にならない等配慮してます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを促しています。歯ブラシが困難な方にはスポンジブラシを使用する等個々の力に応じた対応や介助を実施しています。義歯の方は定期的にポリドント等を使用し清潔に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の排泄パターンやできる能力をアセスメントし、個々に応じて誘導を行い自立した排泄が行えるよう努めています。介助に携わる際には、入居者様の羞恥心に配慮しながら支援しています。	本人の自立した排泄が行えるよう、車いすの入居者も日中はリハビリパンツで支援している。便秘・下痢気味の入居者には、食事や水分で調整し排泄に繋げている。入居者の羞恥心に配慮した介助がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や運動、長事等を工夫するべく自立した排便ができるよう努めています。家族様と相談しヤクルト等を個別で提供できる様にもしています。また看護師と相談し必要に応じて主治医と連携し対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日を定めることなく入浴支援を実施し、体調やタイミングを見計らって入浴時間や介助者を希望に沿えるよう努めています。入浴出来ない日は足浴を実施したりリラクゼーションにも配慮出来るようにしています。	柚子湯の日を設けるなど、入浴を楽しんでもらえるよう工夫がなされ、基本的に隔日での入浴を実施している。入浴できない日には、足浴を実施している。入浴拒否の場合には人を変えてタイミングを見て声かけを行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動的に過ごして頂き、夜間ゆっくりと眠れるよう生活リズムを整える様に心掛けています。又、入居者様の意思や個々の状態に応じて日中休息して頂ける様に配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬剤情報や服薬状況一覧表にて職員一人ひとりが理解し管理に努めています。また、かかりつけの薬剤師または主治医と情報を共有し服薬支援を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の生活歴等の情報収集を行い、やりがいや喜びを感じて頂ける役割や趣味等自由な時間を過ごされてます。季節感を感じたり気分転換になる様なレクや行事で楽しみをもち生活して頂ける様努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望の場所やドライブ、喫茶店に行ったり、個別に買い物に出かけたり、家族様と一緒に自宅へ帰ったり出かけられる方もいたりと外出支援していましたが、コロナの影響で自粛していますが、天気の良い日にホーム周辺を散歩したりしています。	コロナウイルス感染症の影響に伴い、入居者の安全第一を考え、外出はグループホーム周辺の散歩のみとなっているが、室内において、全員で行っていたレクリエーションを個別にするなど、気分転換を図る工夫を行っている。職員手作りのゲームや景色の写真を見て会話するなど、外の刺激が少ないなか、本人に張り合いがでるよう配慮している。	今年度は、コロナ禍に伴い外出が思うようにならなかったが、少しでも環境を変えるよう、感染対策を講じつつ行き先を変えてみる、グループホーム敷地内のベンチを増やすなど、入居者が、戸外の空気に触れ気分転換を図りやすい環境づくりを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様の了解のもと、少額のお小遣いをご本人が所持管理している方もおられ、困難な方は金庫にて預かっております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様や家族様の意向に沿って電話で話せる環境を作ったり、家族様と葉書のやり取りを継続出来る様に支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感ある家庭菜園や入居者様の作品や写真を一部に掲示し季節感を出しながらも生活感に配慮しています。入居者様の状況に合わせて家具の配置変更や居心地の良い空間になる様努め、又、室温湿度を測定し過ごしやすい環境作りに努めています。	春にはお雛様を飾るなど季節感を大切にし、時には歌を歌ったり、音楽を流すなど入居者が寛げるよう配慮している。空気清浄機も購入し、午前中は窓を開けて十分な換気を行っている。入居者の作品や行事の写真など掲示されており、季節感が感じられるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	レクスペースで傾けられたり、一人でも寛ぐ事ができる様数か所に椅子配置、レクに参加し楽しみを共有して頂けるスペース作りにも配慮しています。又入居者様同士の関係性を把握し席の配置も考慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内で落ち着いて過ごせるよう使い慣れた家具や愛着のあるものを持参していただいています。また、ご家族やご友人との写真、本人様の作品なども飾っています。	畳の部屋も有り、入居者の好みに応じている。馴染みの家具が置かれ、本人が居心地よく過ごせるよう配慮している。また、転倒防止の為に、マットを敷いたり、椅子を使ってベッドから戸口までの歩行の導線を工夫するなど、本人にあわせた配慮がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活の中で、簡単な家事に参加して頂いたり、移動や入浴、排泄等も入居者様の残存機能が十分発揮できる様配慮しています。室内もバリアフリーとし、家具の配置を工夫する等、安心、安全に暮らせる様努めています。		